



懐徳堂跡

町中を歩くと、思わぬ場所で歴史に出会うことがあります。東京の飯田橋から九段まで歩いた道路では「榎本武揚の牧場」の案内を見つけました。五稜郭で政府軍と戦った榎本ですが、明治政府に重用され、農業学校づくりにも取り組んでます（育英塾農業科。後に東京農大に発展）。その牧場なのでしょう。

大阪の淀屋橋で、懐徳堂跡を見つけました。日本生命本社ビルの南面、玄関の右横に記念碑があります。大正7年（1918年）に建てられています。



中嶋哲夫の「人事も歩けば」



懐徳堂は大阪では有名な学問所です（大阪大学の前身といわれます）。しかし、どこにあるのかは知りませんでした。見つけてみると、よく行く場所。筆者が好きな建物である愛珠幼稚園（明治時代の木造の幼稚園）の隣。メインストリートの御堂筋のすぐ傍。

懐徳堂の近くには、適塾もあります。北東に2分か3分歩くだけです。江戸時代末期の蘭学の塾。大村益次郎や福澤諭吉が学び、明治維新时期に人材を輩出しました。大阪大学や慶応大学の医学部の前身と言われます。たった1冊しかないオランダ語の辞書を使い、蘭書を翻訳し、1月に6回の「会読」をする。毎回の出来映えが評価され、最上席を3カ月間続けると進級できるという、息を抜けない仕組みで学生が鍛えられました。将来のための基礎訓練をする塾だったわけです。

一方、懐徳堂は、幕府公認の学問所。商人



▲日本生命本社ビルの壁面に建つ懐徳堂旧址碑

が学問を学んだ場所の代表的存在です。江戸時代中期に開設され、明治元年に閉鎖されます。参勤交代や武士の俸禄制度の廃止を幕府に提案した中井竹山、仙台藩の財政を立て直す一方で、宇宙論を述べた山片蟠桃、大乘仏教は仏教ではないと主張した富永仲基など、合理性を基軸に、当時の儒学にとらわれないユニークな町民学者を排出します。商人として成功する一方で、学問を修める。それが懐徳堂だったわけです。他にも心学明誠舎などでも商人が学習をしています。

江戸時代の大阪は蔵屋敷が建ち並ぶ経済センターでした。同時に、学生や経済人が学ぶ学術センターでもありました。実務に堪能であるだけでなく、商売を通じて身につけた合理性を背景に、新しい学問を身につけようとした町人学者たちをもう少し学んでみたくくなりました。

（MBO 実践支援センター代表）